

共生社会学コースカリキュラム・マップ

凡例	科目区分	修士課程共通科目	修士課程コース科目	学府共通科目	研究指導	博士課程コース科目
再掲は薄色で表示		修士課程共通科目	修士課程コース科目	学府共通科目	研究指導	博士課程コース科目
		修士課程共通科目	修士課程コース科目	博士課程共通科目		博士課程コース科目

学修目標			修士1年				修士2年				博士後期1・2・3年		
区分	修士課程	博士後期課程	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1	2	3
D-1. (実践)	<ul style="list-style-type: none"> 積極性を持って自ら進んで課題に取り組み、協調性を持って周りとの協力を進めながら問題解決に向けて努力できる。 問題解決にあたり様々なアプローチの可能性を考えることができ、共生社会学の視点から社会への還元を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極性を持って自ら進んで課題に取り組み、実践的意欲を持って国際的活動に参画できる。 問題解決にあたり、蓄えた知識、他者との交流から、様々なアプローチの可能性を考えることができ、共生社会学の視点から社会への還元・貢献をすることができる。 					特別研究		修士論文		博士論文指導演習		博士論文
C-2. (評価・創造)	<ul style="list-style-type: none"> 社会科学の方法と論理的思考力を有し、表現能力(自分の意見を明瞭に述べる能力)とコミュニケーション能力(討論能力、他分野を理解する能力、語学)により、他の領域と交流することが、学際的知見を導くことができる。 問題の中身を良く吟味し、それを解決するための方法を提示することができる。(以下は、異なる能力なのでA.に移動してはいいでしょうか。) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科学の方法と論理的・批判的思考力を有し、表現能力(自分の意見を明瞭に述べる能力)とコミュニケーション能力(討論能力、他分野を理解する能力、語学)により、他の領域と交流することが、学際的知見を導くことができる。 問題の中身を良く吟味し、それを解決するための方法を提示し、実行することができる。 	学際連携研究法						学際連携研究法				
C-1. (適用・分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティシパント・オブザベーション、インタビュー、アンケート、サーヴェイにより得られたデータの質的・量的分析ができる。 ・社会調査の姿勢に基づき様々な方法を正しく駆使し、さらにはその応用から実践への提言を行うことができる。 ・社会科学の論理的思考力を基盤に新たな社会現象および社会実践への活用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の社会科学の領域で、既存の方法論を超えた創造的な研究方法により、研究者として自立した研究活動ができる。 ・パーティシパント・オブザベーション、インタビュー、アンケート、サーヴェイにより得られたデータを質的・量的分析し、研究の成果を生み出すことができる。 ・社会調査の姿勢に基づき様々な方法を正しく駆使し、さらにはその応用から実践への提言を行うことができる。 ・社会科学の論理的思考力を基盤に新たな社会現象および社会実践への活用ができる。 	人間共生論Ⅰ	コミュニティ行動論	都市社会学					人間共生論講究	共生社会論講究		
			人間共生論Ⅱ	福祉社会学	計量社会学					文化人類学講究	理論社会学講究		
			文化人類学Ⅰ	ボランティア	社会調査論					社会福祉学講究	計量社会学講究		
			文化人類学Ⅱ	NPO論	地域社会学					コミュニティ論講究	地域社会学講究		
			共生社会論	社会システム論	地域社会計画論						家族社会学講究		
			コミュニティ構造論	理論社会学	ジェンダー論								
				地域共生論	家族社会学								
B. (知識・理解)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学・地域福祉社会学・文化人類・比較宗教学の専門的知識を持ち、広範な社会現象および特定の社会領域での記述法について説明ができる。 ・幅広い調査方法について理解し、やそれらがどのように社会科学に应用されるのか説明ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学・地域福祉社会学・文化人類学・比較宗教学についての高度な専門的知識を持ち、広範な社会現象および特定の社会領域での記述法について説明ができる。 ・幅広い調査方法について理解し、それらがどのように社会科学に应用されるのか理論的・実証的に吟味し、説明ができる。(ということでしょうか?) 	人間共生論Ⅰ	コミュニティ行動論	都市社会学					人間共生論講究	共生社会論講究		
			人間共生論Ⅱ	福祉社会学	計量社会学					文化人類学講究	理論社会学講究		
			文化人類学Ⅰ	社会システム論	社会調査論					社会福祉学講究	計量社会学講究		
			文化人類学Ⅱ	理論社会学	地域社会学					コミュニティ論講究	地域社会学講究		
			共生社会論	地域共生論	地域社会計画論						家族社会学講究		
			コミュニティ構造論		ジェンダー論								
			セクシュアリティ論		家族社会学								
			ボランティア・NPO論										
A-1. 主体的な学び・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。 ・多様な知の交流を行い、他者と協働し、チームを運営しながら、問題解決にあたることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。 ・多様な知の交流を行い、他者と協働しチームを運営しながら、問題解決にあたることができる。その過程で、後進を育成することができる。 	人間環境学										
			学際研究論								学際研究論		
			学際連携研究法								学際連携研究法		
区分	修士課程	博士後期課程	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1	2	3
学修目標			修士1年				修士2年				博士後期1・2・3年		
アセスメント・プラン			1年次の後期と、2年次の前期に実施する修士論文中間報告会において、学修目標の達成度を確認する。							1年次に提出する「研究計画書」、2年次に実施する博士論文中間報告会において、学修目標の達成度を確認する。			